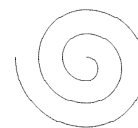


右巻き左巻き

巻き方の名称：らせんは基準をどこに置くかによって巻きの言い方が異なってきます。図の場合、中心から外側へは時計回りで右巻きといっても、外から中心へは反時計回りで左巻きということになる。ここでは根元、あるいは付着点を基準にします。



1. ダブルコイル(地図中①地点)



カスミサンショウウオ



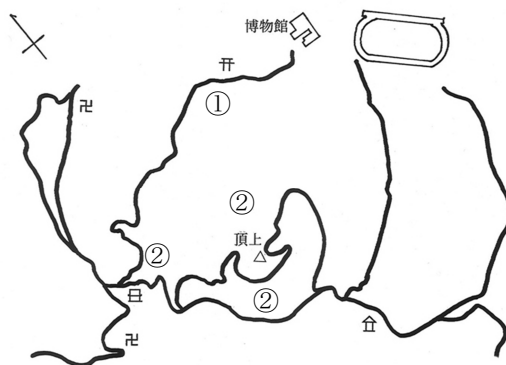
カスミサンショウウオの卵囊



カスミサンショウウオの幼生

1月に入ると、鎮霊神社の池にカスミサンショウウオの産卵が始まります。寒さの中でも夜間が一番安全なのでしょう、落ち葉や石の下にいた成体が夜産卵に集まります。卵は寒天質のひもに入っているのですが、トノサマガエルのようにひも状でなく、短くらせん状になっています。しかも、2本で1セットです。池の中の落ち葉の下になっていることが多いのですが、運が良ければ沈んでいる枝などに付着しているものがみえます。発生が進み、おたまじゃくし型の幼生が三日月型に見えるものがほとんどです。1組のひもに100以上の卵が入っている場合もあります。

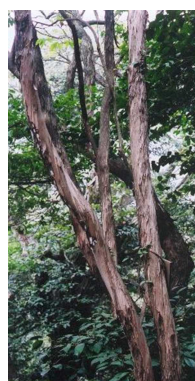
巻き方をどうみるか。カタツムリでは殻の成長の方向を基準にして、渦の中心からの巻き方を上からみて、大多数は右巻きです。逆のヒダリマキマイマイという種もあります。カスミサンショウウオでは、産卵の方向から考えると付着点を基準にして伸びる方向をみるのが動物的な考え方です。右巻きにみえるでしょうか。2本とも同じ巻きか、対称か観察してみてください。



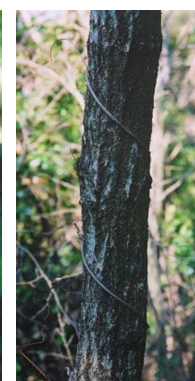
2. ネジキ (地図中②地点)

幹皮に入る縦筋のねじれが種名の由来です。木片を割ると縦にまっすぐ裂けないことから幹がねじれながら成長したことがわかります。ほとんどが植物学でいう左巻きですが、反対に巻いているものを打吹山で5本みえています。成長方向が、種毎に完全に決まっているものではないことを意味しています。

つる植物の場合、巻き方の違いがよくわかります。いろいろな植物の巻き方を観察してみましょう。



右巻きのネジキ

ミツバアケビ
右巻きノダフジ
左巻き